

**平成 19 年度第 4 回  
宝塚市廃棄物減量等推進審議会議事要旨**

ホームページ掲載用

平成 19 年 11 月 30 日開催

## 平成 19 年度第 4 回 宝塚市廃棄物減量等推進審議会議事要旨

開催日時：平成 19 年 11 月 30 日（金）午後 1 時 30 分から 3 時 45 分まで

開催場所：宝塚市クリーンセンター 3 階 会議室

出席委員：22 名中 18 名（うち 1 名途中参加）

委員の過半数以上の出席があり、宝塚市廃棄物減量等推進審議会条例第 6 条第 2 項の規定により会議は成立。

事務局：環境部長、クリーンセンター所長、ごみ政策課、管理課、業務課  
委託コンサル業者

傍聴者：なし

### 審議経過

1. 事務局より、宝塚市一般廃棄物処理基本計画（案）について説明（ワークショップの開催結果報告を含む：11 月 18 日及び 11 月 20 日、各 30 名出席）  
（資料 1、資料 4、資料 5）  
1 章、2 章について説明。

### 主な意見及び説明

会長 議事の進め方だが、1 章、2 章で質問等があれば、挙手によりお願いします。

委員 P10 の図 1-2-7 だが、形式として、数字の多い順にできないか？その方が宝塚市がどの位置にいるのかが分かりやすい。また、第 1 回の審議会の時に、関東の進んでいる、もしくは目標にする自治体のデータを掲載してはどうかと指摘したが。

事務局 技術的には可能だが、こういった順が良いかはこの場でご指示頂きたい。また、他都市の事例については、本編には掲載していないが、別冊の資料編に掲載しようと考えている。ただ、目標値としては掲載していない。

委員 P28 4 節（3）では目標として 3 つの関東圏の市の例が掲載されているのではないかと。また、P15（4）の「エ」のごみゼロ推進員だが、560 人に増えたとのことだが、インターネットで調べると、埼玉県南埼玉郡では 100 世帯に 1 人位の目安

で運営されている。宝塚市に置き換えると 760 人位必要になってくるかと思うが、住宅の形態にもよるが、どれくらいの規模での運営が良いのか。

会長 今の指摘は現状の 560 人では何世帯に 1 人位であるとかの表記をすれば分かりやすいという指摘であると解釈してよいか？

委員 そうです。

事務局 補足説明をすると、排出量の多い順とのご指摘があったが、色々な考えがあるので、この場で決めていただければと思う。また、ごみゼロ推進員の件だが、一昨年に 1,000 人目標で増員しようと活動した。自治会を中心に 1 自治会で 1 名と 100 世帯を超えたらさらに 1 名お願いするという形をお願いした。自治会推薦以外にもマンション等からの推薦もあった。また、P28 の目標とする自治体の件だが、P10 にも表記したほうが分かりやすいということによいか？

委員 地理的にあまり離れていれば参考にならないかもしれないが、目安として分かりやすいと思う。

委員 指摘の点については人口にもよるので、このままで良いのではないか。

委員 1 人 1 日あたりの数値であるから標準化されているのではないのか。

事務局 1 人 1 日の原単位なので比較はできるが、産業構造を加味した上で比較できるもので、絶対値ではない。また、P10 の図だが、分かりやすいように多い順に並べるのも一つの案だと思うので、一度多い順に並べてみても良いと思う。

委員 本市が他の自治体と比較してどの位置にあるかが一目で分かるようにすべきだと思う。

事務局 議論の余地はないので、そのようにさせてもらう。

委員 「スリム・リサイクル宣言の店」が「エコショップ」から名称変更になるとのことだが、せっかく定着しかかったものを変えるのは何か意図があるのか？

事務局 わざわざ変えなければいけないというものでもないが、「エコショップ」というのは概念的なもので、兵庫県では具体的に「スリム・リサイクル宣言の店」とい

う事業を推進しており、統一した方がよりわかりやすく、具体的ではないかと考えている。

委員 こういう名称については頻繁に変更するべきではないと思うが。

事務局 正直なところ「エコショップ」が定着していない。全県下で推進されている名称を使って、今後推進していきたいと考えている。

会長 引き続き3章、4章の説明をお願いいたします。

## 2. 事務局より宝塚市一般廃棄物処理基本計画（案）について説明 （第3章～4章：資料1）

### 主な意見及び説明

会長 それでは今の説明の部分について質問等あれば挙手願います。

委員 廃棄物減量等推進員の目標が1,000人とのことですが、この根拠を教えてください。また、このシステムについては、どこか先進地での成功例などを参考に本市でも活用しようということなのか？

事務局 基本的には各自治会ごとに1名、そして100世帯を超えるごとに1名で計1,000人の目標でスタートした。現実的には各自治会から推薦を頂き、560人の方をお願いして、今、少しずつ定着しつつある状況である。1,000人との関係だが、自治会によっては100世帯を超えていても1名でいいという自治会もあれば、まだ未加入の自治会では未推薦のところもある。市としては基本的には大体100世帯に1名の割合で、地域のごみの問題に取り組んで頂きたいと考えている。また、モデルの問題だが、目指した形は約280名の民生児童委員の方が、地域の福祉活動等に積極的に活動頂いている。そういった事実的に地域で一体となって活動しているというものをめざしていこうとしている。ただ、ごみの場合はもう少しエリアを小さくして活動して頂きたいと考えている。

委員 予算はどうして決めているのか？

事務局 ごみゼロ推進員に関する予算は、活動に伴う経費の負担に対して、推進員の母体である自治会に手数料として1人につき2,000円を交付している。あと、通信

費も負担している。

委員 先ほどからワークショップの話が出ているが、ワークショップとはどういう集まりなのか？

事務局 今回の基本計画について、いくらかの推進員の方から意見をもらおうということで、ごみゼロに対する提案をカードに書いてもらいグループでまとめて発表していただいた。そういう自分たちで作業しながら考える場のことである。この意見の中から、施策に反映できるものを本計画に取り込んでいくこととした。

委員 ごみゼロ推進員については、今回の計画の目玉かと思うので、P31 のまとめ方の質問だが、5 項目のまず下の 3 つの項目が先かと思う。上の 2 つは強化のための策と思うが、市の考えを聞きたい。

事務局 項目の順番については、前回の計画を参考に設定したが、まず、会員を増やして組織作りをおこない、研修を通じて活動の充実を図るということで並べている。

事務局 今の提案は非常に大事だと思う。まず、重要な点を押さえ、手段を書いていく方が計画としてインパクトが強いと思うので、同意いただければ、今の提案の形に変えてはどうかと思う。

委員 ごみゼロ推進員の役割の中に、市民に対して 3R の啓発を行うということで、「3R」という言葉を是非入れて頂きたい。

事務局 了解しました。

委員 P33 の下から 5 行目のごみ処理機購は「購入」ですね？あと、聞きたいのは P43 の施策番号 30 で効率的かつ合理的として記載されているが、この「合理的」とは具体的に何を指すのか？

事務局 基本的には市の方で「民間委託の拡大」と収集業務の入札に係る「競争入札の試験的導入」を進めており、合理的という言葉はこれらを総合して表現していると思う。具体的な文言を、なぜ使わないかについては、これからの検討課題とし、入札については試験導入の検証作業があることと、民間委託については阪神間で最先端を行っているということもある。これについてもどこまでやれば適切かということも議論のあるところで、提案の主旨を踏まえ

た上で、多くの方に理解いただく表現として提示した次第である。

委員 P18のごみ処理原価の推移の表だが、平成18年度の1tあたりの費用とかはこれでいいのか、もっと削減する余地があるのかどうか、これでは読めない。施設の規模とか、職員数とかについても表記があれば、人員配置が適正かとか見やすくなるのではないかと。全体的にごみの量とかは比較できるが、ごみの原価等については評価できるような表現にして欲しい。

事務局 2回目の審議会でもいったが、廃棄物会計については今年の7月まで統一基準がなかった。しかし、統一基準ができたので来年度からの課題として現在鋭意作業中である。人員の件についての委員の指摘は効率的・合理的ということだと思うが、少し別の形で今後どう整理していくかを、方法論については引き続き検討していきたい。

委員 P36で市役所をはじめとする公共施設が市内有数の発生源とある。これに対して公共施設の減量化・資源化に率先して取り組むとあるが、非常に良いことだと思う。この結果や経過等については広報等でアピールして欲しい。

事務局 市としてもISO14000取得後5年が経過し、庁内のごみ箱も一昨年からなくしている。また、その結果も出ているが、これが市民になかなか伝わっていない。来年度はシリーズを組んで発表していきたいと考えている。

委員 P40でごみ減量化施策の検討とあるが、京都市では天ぷら油(廃食油)を市バスで使用しているようだが、宝塚市でもできないか?ごみ収集車が天ぷら油で動けば、全国にアピールできると思うのだが。

事務局 4年前から職員の中でも提案もあり、我々も関心を持ってきたところだ。できれば、今、「菜の花プロジェクト」ということで、滋賀県の方で取り組まれており、全国に広がりつつある。本市では西谷地区で2アール位の規模で栽培中だが、品質確保、収集コスト、家庭の油だけでは多く集めるのが難しいなどの問題があるので、現在、消費者協会とも相談しながら研究中だが、少しでもいいから結果を出していきたい。

委員 P36の公共施設での減量化だが、実際問題として庁内の減量委員云々と書いてあるが、こういう方たちに是非率先してコンポストに取り組んで頂きたい。姫路市でも電気式生ごみ処理機の補助を100セットしているようである。本市としても積極

的に補助し、前向きに検討している姿勢を出して欲しい。

事務局 コンポストの普及については機会をとらえて職員にも働きかけていきたい。電気式処理機については、前回の審議会の諮問の時に有料化のところ意見が真っ二つに分かれた。理由は電気式生ごみ処理機はエネルギーを使うということで、これがちゃんと堆肥になって土に還元された場合でも、ライフサイクルアセスメントの面から見るとひょっとしたらまずいんじゃないかという議論もあった。逆に積極的にいこうという意見もあった。現在は折衷案として現状維持をしながら実証的に研究をしようということである。電気式でできたものを堆肥として使って頂けるのであれば積極的に、また、クリーンセンターに戻ってくるようであれば消極的にと考えており、現在調査・検討中である。

委員 基本計画の目標として平成 29 年度を目処に 15%の減量とあるが、根拠の数字は P 27 だと思うが、ほとんど変化がない。この予測の数字があがってきた根拠を是非説明して欲しい。

事務局 指摘の件については、資料編の P 29 以降に書いているが、人口の推移予測と過去 6 年間のデータを用いてごみ量がどう変化していくか、統計的に予測を行っている。

委員 これは基本的に何も施策をしないで、今の状態でいけばという、人口だけで見た数値予測か？

事務局 人口と過去 6 年のごみ量の推移から予測している。何も施策を打たない場合ではなく、今の施策を継続した場合ということである。1 点だけプラスチック類の分別に伴う減量分についてはこの中に読み込めていない。これらを総合して施策を推進していけば、最終的にこうなるというものは付けていこうと思う。

委員 算出根拠だが、理屈があって根拠があって予測をしているが、ぱっと見た時には変化がない。これだけを見ると過程は根拠を持って積み上げているのだろうが、それが見えてこない。根拠があるのであれば、それを表記しないと、結果、どんぶり勘定という印象が否めない。

委員 この表を見たときに、ごみ有料化が言われている中で、市民の一人として納得の前に「理解」ができない。市民はプラスチックの分別が始まってからごみ減量に対してすごい努力をしている。これだけ市民がごみ減量の努力をしても、この数字で

見たら努力していないのと一緒に、全然減ってないのではないか。それを根拠として15%減らしますよと言われても、じゃあ次は市民に何をしろというのか。ある意味不信感というか、そういう部分で基本計画というのは、数値を出すことが大切だと思う。その基本となる数値がどこから出てきたかだと思う。誰が聞いても分かるようにすべきで、現時点では理解できない。

事務局 表現については不親切で、分かりにくいと思う。先ほどいったプラスチック類の分別に伴う減量について、この推計値への反映や説明がほとんどできていない。実は燃やすごみの30%減量という目標だが、このうちの半分は既に達成しており、このあたりが説明不足であるのは事実だ。おそらく市民からはこの計画を出したときに、せっかく減量できているのが数値に出てきていない、これでは理解に苦しみますよ。という分については、もう少し工夫がいるのではないかと考える。というのもこの計画が、統計を取る上で境目にあたるために成果を踏まえて設定した数値ではあるが、説明が不十分になっており、プラスチックの部分についてはなにか特別資料として準備する必要があるかもしれない。

事務局 数字の出し方についても会長と調整して再度検討したい。

委員 この表(P27)の上の方は総量で下の方が1人あたりの量になっている。だから下のほうを先に見ていれば減っているのがわかるが、人口が増えた分、市民の努力が見えにくくなっているのでは、言葉の補いがあれば、理解ができるのではないかと？

委員 表現の仕方については%表示をしたら分かりやすいのでは。蛇足だが、他市と比較すると本市のホームページの表現は硬い文章が多く、分かり易さに欠けると思う。

会長 現状のプラスチック類の減量を加味すれば、もう少しごみ量が減る予測が十分可能であるということではないか。実績の把握ができればもう少し予測の数値が減ってくるということがあるのではと思う。そのあたりも考慮した上で表等の工夫をして修正・検討願いたい。

事務局 プラスチックの実績を含めた予測というのは実績が半年分しかないのでは、データとして盛り込むのは難しいので、検討させてほしい。

事務局 本編に掲載するにはデータが少なく厳しいと思うので、具体的には資料編等の別冊にして、行政側からの資料としての提示を検討したい。



委員 P45の4だが、システムに乗らない不法投棄の防止に対する策として「不法投棄防止に向けた排出の支援についての研究」とあるが、言葉の意味がわかりにくい。例えば不法投棄の防止に対して県民局や警察との連携や、市民の監視協力、料金体系の検討など例えば「不法投棄防止に向けたシステムのあり方」とかの表現の方が分かりやすいのでは。あと、その上の文章もクリーンセンターにおけるサポート体制となっているが、市全体としての推進方策として頂いたほうが有難いが。

事務局 この表現の前提は、排出するルートがなければ市民は不法投棄しますよという、非常にいやな言い方になっている。事務局でもずいぶん議論したが、粗大ごみを有料化したときに、すごい量の不法投棄を予想したが、市民のモラルが高く、心配するほどの量はなかった。これ（不法投棄）は有料、無料にかかわらずあることなので、ここでの表現は指摘のあったように変えたい。

委員 P48の「近隣自治体等との連携」だが、最初の1行目の表現が弱いように思う。最初に話があったように、「すでに国内の先進事例を参考にしながら積極的に強化していく」などの表現の方が良いのではないか。

事務局 「先進地域の事例を参考にしながら」という風に改めたい。

会長 「変更していく」という表現を「強化していく」という表現に修正するというところでよいか。では、次の議論である本計画の「キャッチコピー」について議論したいと思う。まず、事務局のほうから説明をお願いします。

### 3.事務局より資料5に基づき、キャッチコピー（フレーズ）について説明

なお、このキャッチコピー（フレーズ）については、パブリックコメントを行う際についても使っていきたい旨、説明した。

#### 主な意見及び説明

会長 日程的に時間がなく、本日、決定したいので、よろしくお願ひしたい。

委員 「めざせ、ごみゼロ。」とあるが、ごみはゼロにはならない。50年先、100年先にごみが全て資源になるというのが「ごみゼロ」だと思っている。そういう意味ですと未来のイメージで身近に感じない。「燃やすごみゼロ」なら分かるが。また、このキャッチコピーが大人だけでなく、子供にも教育していく必要があると思うので子供も身近に感じることができ、理解できるものの方が良いのではないか。より具

体的なものの方がより効果的であると感じる。例えば「分けて減らしてめざせクリーン宝塚」ではなくまず、「減らして分けて」ではないか。「今日のごみは明日の資源 宝塚」というのも未来のことのように思える。子供やお年寄りでも理解できるキャッチコピーの方がいいと思う。

事務局 言葉については感性的なものなので、事務局としてコメントは差し控えるが、1点だけ、理屈上の問題だが、「ごみゼロ」を考えた時にはゼロエミッションとの関連で、ご指摘のとおり3Rの最後の砦であるリサイクルを100%にすればこのとおりになるが、次の新炉を造る時にこの目標に行ければと考えている。具体的には可燃ごみの50%減量ができれば、次の新炉は最新型のリサイクル、熱回収ができる炉の導入がかなり具体的に考えられると思う。現在のクリーンセンターの熱回収率は1%未満だが、最新の発電所では50%である。ごみを使ったバイオマス発電の熱回収率が現在17%位で技術的に高い方である。それぐらいの熱回収ができればサーマルリカバリーを含めれば、ごみゼロを達成できたといえる日も遠くないのではないかと思う。

委員 キャッチコピーなので「めざせ、ごみゼロ」でいいと思う。45年間環境問題や食の安全等に関わってきたが、ごみの問題は市民の意識をどういう風に広げていくかということだと思うので、ごみゼロ推進員も100人に1人位で十分で、むしろ、どういう人を選ぶか、どれだけ熱心にやってくれるか、熱意があるかということだと思う。本市でも先進地に視察に行き、よい結果が出ているのであれば、自分の市でどうできるかを考えるべきで、廃食油についても年間1,800リットルほど石鹸を作っているが、これ以上は予算の関係上等で、難しい。文章でなく実践を主体にして議論して頂きたい。

委員 「美サイクルで きれいな街を 次世代に」とかはどうか？

委員 私自身は毎月広報で「めざせ、ごみゼロ。」が定着していると思う。定着ということとは大事な事だと思うので、そのままがいいと思う。それに付け加えるとすれば、ごみというのは私にとってはごみでも別の人にとってはごみでなく、宝物かもしれないので、宝と思う意識の改革が消費者に必要だと思う。

委員 本来「ごみゼロ」というのがずっと使われてきているが、定着しているのに変更しようとする理由は何かあるのか？例えば何年かおきに変えるとか、不都合があるとか。

事務局 広報のキャッチコピーとしては定着していると思うが、本計画にふさわしいもう少しソフトで計画にふさわしい表現があれば望ましいかなということで、お願いしているところである。

会長 個人的な提案ですが、宝塚市というのは美しい都市で、知名度も高い。キャッチコピーの設定にあたっては、ビジョンをしっかりとっておくことが必要であると思う。例えばスウェーデンは「世界のトップレベルを目指す環境立国」という目標を掲げて今、先進国になってきている。そういう事例をみると、やはり志を高く持っていていいのではないかと、本市でも宝塚市ならではのビジョンを描けるのではないかと前から思っていた。宝塚市の持つ都市の「響き」を十分活用できるキャッチコピーもあっていいのではと思う。また、地球の温暖化という面ではIPCCやゴア前副大統領がノーベル平和賞を受賞するという世界が環境問題に注目している時代なので、もっと世界に目を向けて環境の事を考えるというような響きが入ってもいいのではとも思う。具体的な提案だが、「めざそう、世界に誇れるごみゼロ都市 宝塚」というのをキャッチコピーにしてはどうか？「めざせ」ではなく「目指しましょう！」というような呼びかけが入ったものはどうか？ご検討頂ければと思う。

委員 「めざせ、ごみゼロ。」というのは何年来使っているのか？

事務局 3年です。

委員 「めざせ、ごみゼロ。」というのは、他の都市でも使われていないのか？宝塚だけですな？

事務局 「ごみゼロ」というのは一般的に使われている。

委員 「めざせ、ごみゼロ。」というのが、他県の都市で使われているのではなく、宝塚市だけであれば値打ちがあると思うが。

事務局 「ごみゼロ」というのはかなりの都市で使われている、「めざせ」が付いたものについては、オールジャパンでは分からないが、かなり可能性が高いのではないかと。

委員 今回、このキャッチコピーで「宝塚」を入れれば宝塚だけのキャッチコピーになると思うが。

事務局 事務局としては、「めざせ、ごみゼロ。」が発展する形での表現であれば、より望ましいのではないかと考えている。

委員 インターネットで見ていると、確か岩手県だと思うが、「環の町芳賀」というのがある。それを見て、その地域を特定して、先進でがんばっているということ表現するキャッチフレーズであることが大事だと思う。それと宝塚市の持つイメージが、住んでいる人の心の拠り所となるような良いイメージなので、これを使うことなどが会長の意見と同じポイントだと思う。

委員 宝塚というのは花と緑の街なので「花と緑の環境都市 宝塚」というのはどうか？あえてごみというのを「環境都市」と置き換えるということも宝塚らしいセンスではないか。

委員 ごみゼロの「ゼロ」に行政として抵抗があるように思えたが、そうではないのか？私はこれでいいと思う。付けるのであれば後ろに「宝塚」と付ければいいのではないか。例えば隣の伊丹市が「ごみゼロ」と言っても姉妹都市でいいのではないか。兵庫県全部がみんなが一緒にやればいいのではないか。また、子供は子供たちの意見を尊重して子供たちでキャッチフレーズを決めてもいいのではないか。

会長 このキャッチフレーズは、今回決めたものが広報にも使われるのか？

事務局 広報のキャッチフレーズについては定着してきているので、今後も継続して使って行きたい。基本計画をPRする際のキャッチフレーズは、このままで良いのか、変えていけば良いのかということで、お聞きしたということだ。

会長 審議会としてまとめていくポリシーとしてなにかあればということでここに書かせて頂いたらということだったが、キャッチフレーズは「めざせ、ごみゼロ。」で統一して、審議会もずっとまとめてきたということになれば、それはそれでいいと思う。ただ、志高く皆さんで向かっていこうという意識付けも私達の願いとしてここ（基本計画）に限定して使ってもいいのではないかと思った次第である。

委員 会長の意見に賛成である。サブタイトルとして、私はみんなで承認すればいいと思う。キャッチフレーズの「めざせ、ごみゼロ。」はそのままで、基本計画でサブタイトルとして使うということで異論ないと思うが、どうか？

・満場一致で「めざそう、世界に誇れるごみゼロ都市 宝塚」に決定。

会長 では、そういう風にさせていただく。少し時間が過ぎたが、今回の会議で審議会として頂いた一定の結論をもとに、1月4日から2月4日にかけてパブリックコメントということで、市民から意見を頂き、2月の最終の審議会を経て、2月末には市へ答申をしていくというスケジュールになっている。以上を持ち、宝塚市一般廃棄物処理基本計画の案についての議論はこれで終了したい。2月の開催日程について、事務局からお願いしたい。

事務局 2月15日の金曜日をお願いしたい。時間は本日と同じ13時30分から、会議室もこの場所を考えている。

会長 以上で、本日の会議を終了します。長時間ありがとうございました。

(午後3時45分 閉会)